たのに、支障木が目立つようでは、やっぱり野川、水清き野川ですね、これ泣きますので、やっぱりそこは県のほうにもいろいろお願いしながら、支障木を伐採していただくようにお願いしてまいりたいと思ってます。

**○渋谷佐輔議長**　５番、平　進介議員。

**○５番　平　進介議員**　ありがとうございました。

以上で質問を終わります。

**○渋谷佐輔議長**　ここで暫時休憩します。再開は３時20分といたします。

午後　２時５５分　休憩

午後　３時１９分　再開

**○渋谷佐輔議長**　休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

## 鈴木富美子議員の質問

**○渋谷佐輔議長**　次に、順位５番、議席番号６番、鈴木富美子議員。

（６番鈴木富美子議員登壇）

**○６番　鈴木富美子議員**　長井創生の鈴木富美子です。議場は大変暑くなっております。暑さに負けず、爽やかな気持ちで本日最後の質問に入らせていただきます。ご答弁よろしくお願いいたします。

平成30年度市長の施政方針の中で、新しい人の流れをつくる取り組みとして、人や物の交流を拡大させ、まちを活性化するため、効果的なＰＲや四季折々の食や体験、地元の人との交流などを盛り込んだ滞在型観光交流の構築、さらに、長井市東京事務所などを活用した移住、交流事業の推進により、魅力あふれる長井の資源を全国に発信する。また、昨年オープンした観光交流センター　道の駅　川のみなと長井より中心市街地への誘客を目指すとしております。

交流人口の増加に欠かせないボランティアガイドについては、長井黒獅子の里案内人の皆様が対応しておられます。昨年の29年度は約9,300人のお客様を案内されております。しかし、今年度に入り、個人のご都合や諸事情等でおやめになられた方が多く、今後の対応を真剣に考えていく必要があるのではないでしょうか。

それでは、第１項目に入らせていただきます。ボランティアガイドの今後の対策についてお伺いいたします。

初めに、現在の形でのボランティアガイドについて、平成28年６月議会で市長に質問をさせていただきましたが、市長答弁の中で、今後やまがた長井観光局も含めて検討していくとのことでしたが、その後、検討していただいたのでしょうか。その結果はどうなのでしょうか、市長にお伺いいたします。

続きまして、３年前になりますが、長井商工会議所の中に雇用創造協議会がありました。その事業の中で、おらんだの長井検定というものを実施されました。そのとき私も受験いたしました。長井市の魅力が満載でした。そして、長井市のことを知らない自分に驚いたことを忘れられません。長井に住んでいながら地元のことを知らないということは、よそからいらした皆様には、長井のよさを伝えられないのではないでしょうか。

そこで提案させていただきたいのですが、おらんだの長井検定を復活させ、多くの市民に我がまちを知っていただき、さらに、ガイドに興味を持っていただくことで案内人の存続につながっていくと思いますが、商工観光課長はどのようにお考えでしょうか。

先日、山形百名山である長井市の熊野山に５

月４日、クラブツーリズム仙台のお客様17名がおいでになりました。「春の花々と朝日連峰の大展望　置賜・熊野山」というツアー名です。クラブツーリズム仙台が山形百名山登山ツアーの第一弾として企画されたものです。また、福島県の孫の手トラベル企画で季節の山菜ツアーもありました。どちらのガイドも山岳ガイドの八木文明さんです。八木さんは有償ガイドであります。今後、長井においでになるお客様をご案内するためには、今までのボランティアガイドで活動なされてきた皆さんと有償ガイドとの連携をしながら、すみ分けが必要なのではないでしょうか。八木さんは、今後、職業ガイドも含めて誘客やツアーの受け入れ、今年度の冬季からは、長井の地域資源を活用した体験プログラムや大人を対象とする生涯学習講座など、いずれも有料にし、若い世代の生計の一部になるようにと準備をする予定だそうです。

長井市として、お互いに連携を持ち、例えば、ガイドの養成講座に係る費用などの支援をして、少しでも多くの皆様に興味を持っていただくことを提案したいと思いますが、市長はどのようにお考えでしょうか。

次に、先日、産業・建設常任委員会協議会で説明のあったまちの駅について、商工観光課長にお伺いいたします。

先日竣工式が行われました本町のテナントミックス、クロスバの中に事務所をお借りするとお聞きいたしました。いつからオープンするのか、ボランティアガイドの配置はどのような形にするのか、もう一度詳しくお聞きいたします。

第１項目最後になりますが、観光交流センター　道の駅　川のみなと長井がオープンして１年になりました。お客様も順調に長井においでいただいてるようです。今後は、リピーターをふやしていくことで、長井の観光から、いずれは移住定住につながっていくことができたらうれしい限りです。そのためにも、やまがた長井観光局に課せられた期待は大きいものだと思います。

先日の黒獅子まつりは、悪天候にもかかわらず、多くのお客様がおいでになりました。これも長井市商工観光課、長井市観光協会との組織の連携によるものと思います。

最近、土曜日、日曜日には、市内に「まわるん」があちこちで見受けられるようになりました。観光に対する長井市の動きが見えるようですが、今後インバウンド事業も取り入れるのであれば、有償ガイドが年間を通してガイドができる旅行商品や通訳など、多岐にわたり取り組んでいく必要があるのではないでしょうか。そのためにもそれぞれの組織の役割の見直しなど整理していく必要があると思います。市長のお考えをお聞きいたします。

続きまして、第２項目に入らせていただきます。オリンピック・パラリンピックホストタウンの市民への周知についてお伺いいたします。

先日、つつじマラソン大会が行われました。前日の黒獅子まつりの天気とは打って変わり、すばらしい天気となり、参加なされたランナーの皆様は爽やかな汗を流されたようです。参加人数は、昨年の1,000人超えに続き1,049人と、今まで最高の皆様に参加していただいたことは、当局の努力によるものと評価したいと思います。

今後の予定として、秋の長井マラソン大会があります。この大会には、オリンピック・パラリンピックのホストタウンに向けて、タンザニア連合共和国より選手の招待を予定していると総務常任委員会協議会でお聞きいたしました。市民の皆さんも一緒になってオリンピックムードに活動していかなければならないのではないでしょうか、そのためにも質問をさせていただきます。市民への周知等はどのように考えておられるのでしょうか。また、タンザニア連合共和国より何人の選手の方がおいでになるのでしょうか。地方創生参事にお伺いいたします。

当初の予算の中で、オリンピック・パラリンピックホストタウン誘致事業の中のスポーツ国際交流員の報酬があります。今現在、当局にはいらっしゃらないようですが、国際交流員はいつごろの予定になるのでしょうか。地方創生参事にお伺いいたします。

また、スポーツ国際交流員の仕事内容についてもお聞きしたいと思います。

次に、長井マラソン大会の招待選手の旅費、交通費についてお伺いいたします。旅費につきましては長井市で負担するわけですが、国からの支援はあるのかお聞きいたします。今後オリンピック・パラリンピックまでに、毎年この費用を確保しなければならないと思います。長井市民へのメリットはどのようなものか、どのようにすれば長井市の国際交流に貢献できるのか、地方創生参事はどのようにお考えでしょうか。

最後になりますが、市民のオリンピック・パラリンピックに対する盛り上がりや周知について、まだまだ足りないと思います。例えば、観光交流センター　道の駅　川のみなと長井等にパネル展示や商店街の皆様にご協力をいただき、タンザニア連合共和国のコーヒーが飲めるコーナーや、できれば料理なども楽しめるイベントも行う必要があるのではないでしょうか。イベントなどを行うことで少しでも多くの市民がオリンピックムードになり、タンザニア連合共和国の皆さんの応援団になることを期待したいと思います。市長のお考えをお聞きいたします。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

**○渋谷佐輔議長**　内谷重治市長。

**○内谷重治市長**　鈴木富美子議員から、大きく２つご提言をいただきました。

まず最初に、交流人口に対応できる観光ボランティア養成についての施策を問うということで、まず１点目の平成28年６月議会でボランティアガイドの今後の対応について質問したが、その後どのように対応したかということでございます。

ご質問いただきましたことにつきましては、２年前のやまがた長井観光局を立ち上げたときのご質問だったというふうに思っております。観光局が行う企画、旅行商品の実施にボランティアガイドの皆さんが対応できたのかというご質問であったというふうに思います。

観光局は、28年度から、市民の皆様が受け手となるまち歩き観光、また首都圏から長井市方面にお越しいただく旅行エージェントを行うツアーに、タイアップ商品って言ってますけども、タイアップして長井市に入っていただく企画、また、山形鉄道で受け入れるエージェントツアーとの連携商品といったものを主に運営してきております。

ボランティアガイドの皆さんの対応についてでございますが、特にまち歩き観光では、観光局が販売するツアー商品の企画段階から黒獅子の里案内人の皆さんからご意見をいただいてつくっている状況でございます。エージェントが行うバスツアーの対応も、観光局を通じて、ボランティアガイドが乗車して長井市の紹介を行っていただいております。そういった意味では、まさに鈴木議員がおっしゃるように、観光ボランティアガイドあっての長井の観光ということが言えるというふうに思っております。ボランティアガイドの皆様に、積極的に長井の観光振興に手伝っていただいてる状況でございます。

次のご質問でございますけれども、ボランティアガイドと有償ガイドのすみ分けが必要なのではないかということで、議員からは、今の黒獅子の里案内人のボランティアガイドのなり手っていいますか、いろんな事情でやめられる方多いのに対して、新たに入会いただく方が少ないと、大変厳しい状況ではないかということでございますけれども、ボランティアガイドについては平成13年から活動を開始していただいて

おります。初めは、花観光で訪れるお客様に、まさにボランティアとして、あやめ公園とかで待機いただいて、いろいろ紹介をしていただいたということが多かったと思います。現在は、さくら・つつじ・あやめの祭り時に公園での案内を今までどおり行っていただくほか、エージェントからの要請については、料金表を設定して、有料で対応しております。

また、やまがた長井観光局を設立以来、着地滞在型観光を主な商品として開発しており、こちらも有償のガイドとしてエージェント対応と同様に行っております。黒獅子の里案内人のほかにも、これまでも議員からも紹介ありました、有償で山岳ガイドをしていただいてる方もいらっしゃいますので、観光局の企画商品としてガイドつきの山岳観光やトレッキング旅行などにも取り組む中で、全体のガイド体制を整備していきたいと思います。

また、議員から提言ありました人材育成についても、各種資格制度を見ながら、支援も考えていきたいというふうに思っておりますが、基本的には、やはりボランティアとして自分の自由に使える時間を提供して、いろんな方、おもてなしをしていただくっていうのはこれ基本なんですけども、ただ、これから多くの観光客、少ない観光客のときはいいんですけども、本当に多くなったりすると、なかなかそういうボランティア、本当のボランティアでっていうのは難しくなってくるんじゃないかなと思っています。

したがいまして、今後どういうふうなボランティアガイドのあり方が望ましいのか、やっぱり黒獅子の里案内人の皆様のお考えをお聞きしながら、あと私どもとしては、ボランティアガイドの組織にお任せするとしても、基本的には有償でできるだけしていただいて、あとその会の中で、いや、私は有償じゃなくてボランティアでいいんだと、いや、私はこれからもずっと続けるためには、ある程度、有償といっても本当ボランティアの有償の金額なわけですよね、ですから、それでも続けられるにはそのほうがいいという考えの方もいらっしゃいますので、この辺のところは話し合いなどをやっぱり進めながら、いろんなやり方があっていいんではないかなというふうに思っているところでございます。

続きまして、この項目の３点目ですが、観光事業やガイド事業を実施しているやまがた長井観光局、長井市商工観光課、長井市観光協会について、役割の見直しや整理をできないかということでございますけれども、観光事業につきましては、今後長井市が存続していく上で、地域の経済のパイをできるだけ維持するには、外から来ていただいた方にお金を使っていただくと。ですから、長井市がつくった観光振興計画は、今後10年で20万人の観光客をふやして、12億円の直接的な経済波及効果を目指すんだということで、平成25年に10年計画でつくったわけですね。これは、外から何人いらしたっていうことも一つのカウントとして、目標としてはいいんですけども、やはり、幾ら地元で使っていただいて、それによって地域の経済を潤すということで考えておりますので、そういった意味で言えば、役割分担というのはしっかりと、これ考えていかなきゃいけないと思っています。

人口減少そして消費動向、就業などの諸問題を抱える中で、外からのお客様を迎え入れ、地域内での消費を拡大するために、地域一丸となってお客様を受け入れる体制をつくり、提供する観光資源をつくり、またはブラッシュアップ、磨き上げをして、長井市に旅行の目的地になるようなまちづくりを進めるため、ＤＭＯという組織であるやまがた長井観光局を立ち上げたわけですね。ですから、行政では観光振興計画を立てたわけですね。そして、観光協会はいろんなお祭りの実行、企画実行やら、あるいは新た

な観光の発掘やそれを磨き上げるさまざまな助言をして、行政が観光協会と一体になってそれを整備していくと。それらの商品、それらのお祭りに外から長井市にお越しいただくための旅行会社の機能がやまがた長井観光局と、明確に役割分担してるんですね。

ただ、これは、普通の方は、市民の方は、そう簡単にわからないわけですよ、観光の実態はわかんないわけですから、ここを繰り返し説明していかなきゃいけないと思っていますが、議員のご指摘されますように、市商工観光課、観光協会、観光局の役割を発揮して、持続可能なまちを形成していく必要があるということだと思います。

この３組織の役割は、観光局が市内外のお客様窓口として、総合案内の役割と地域でお金を使っていただく仕組みをつくることを担っていくと。ただ、課題は、これはもう長井だけではだめなので、広域でやっていかなきゃいけないと。しかも地方創生の交付金などを活用して、観光もお金がかかりますんで、特に人件費ですね、そういった部分を国の支援をいただきながら、やっぱり観光商品づくりをすぐれたものを、なおかつ長井だけじゃなくて、ある程度長井市周辺の市町村と一緒になって、魅力ある観光商品をつくっていくということだと思います。

繰り返しになりますが、観光協会では、観光資源を生かした祭りやイベントを市民と行政との協働で行いまして、内外にＰＲしていく役割、行政は、観光地としてのハード整備や資源の磨き上げ、観光地域づくり政策を担っているということになります。このような役割をそれぞれ担っていますが、今後については、観光局がさらに地域連携ＤＭＯとして、長井市以外の資源も活用するとともに、受け入れ体制を拡大して組織の法人化を図ってまいりますので、観光資源を生かした、さらに魅力ある地域となるよう、業務の分担と連携を整備していきたいと思っております。

続きまして、２点目の2020年のオリンピック・パラリンピックホストタウンの取り組みについてお答え申し上げます。私のほうからは、（４）のオリンピック・パラリンピックホストタウンに向けて、タンザニア連合共和国の応援団になるための、市民が盛り上がれる施策を考えるべきではないのかというご提言でございます。

実は、きのう全国市長会がきのう、おとといとあったんですけども、その後、首相官邸にホストタウンを290団体ほど国から認定をいただいてるんですが、そのうち二百二、三十の団体が集まりまして、いろんな情報交換があったんですけども、その中で、先行して取り組んでいる自治体の事例が５カ所ございました。岩手県の大船渡市は、復興ありがとうホストタウンということで、東京オリパラに向けて、いろいろつき合いのあった、いわゆる震災のとき、東日本大震災のときの友達作戦で応援してくれたアメリカとの交流がずっと続いていたということで、アメリカとのホストタウンをやっているということで、今までのずっと経過の中の説明をいただきました。その後も毎年、例えば札幌の米国総領事館の領事を迎えてのトークセッションをやったり、あとはアメリカの救助隊との交流ということで、まさに３月の11日から何日間にかけて、実際に応援っていいますか、助けに来てくれた海兵隊の人たちとの交流をやったりとか、そういった中でオリンピックの活動をしているということで、この辺などは今までもやってきたんですね、ですからこういうことをやっていると。

あと静岡県の浜松市はブラジルなんですけども、1990年代から浜松のほうにブラジルの方たちが大勢、何万人もですね、最大３万人ぐらい住んでて、いわゆる非常に就労ビザなどを優遇して、日系ブラジル人の人を中心に受け入れた

んですね。そんなことで今回もブラジルの活動をしているということとか、あと同じようにアフリカでは、茨城県の笠間市というところがエチオピアと交流してるんですけども、こちらも、これは平成23、24年から交流をやってると、その延長でホストタウンというところはあるんです。

ところが、私どもの場合は、議員ご指摘のように今回のホストタウンで初めて交流したわけでございまして、そういった意味では、まだまだ市民への周知が必要だということはわかるんですが、これタイミングと準備っていうのが非常に難しいと思っています。今までホストタウンのキックオフイベントやら、あるいはいろいろな講師を招いて勉強会とかしたわけですよね。あとは大使館、在日タンザニア大使館の大使にお越しいただいて、小学校、中学校と交流してもらったりとか、そういったことなどをしながら、いよいよことしは秋に長井マラソンでタンザニアから選手を８人ほどお越しいただけますし、何よりもイカンガー選手がいらっしゃるということで、これを一つのきっかけとして、大いに盛り上げていきたいと思いますが、あとほかにも、実は、このエチオピアのホストタウンをしている茨城県の笠間市のほうでは、消防車両とかを贈ってるんですね。私どもも実はタンザニアから依頼がありました、使い古しでもいいから欲しいと。いっぱいもう必要なんだけども、そういう買えるお金がないからということで、これはもう去年のうちから西置賜行政組合のほうで、そういう車両が出たら、長井市のみならず、西置賜行政組合のみならず、各市町村とか県内に呼びかけて、それらを贈っていこうとか、あとは野球などでも野球の用品やら、あるいは、いずれ日本人の長井の人たちをコーチとして派遣して教えようとか、いろんなことをしようとしてますが、まさにこれからでございますんで、ぜひ議員のほうからはいろいろご提言をいただければというふうに思います。長くなって申しわけありません。

じゃあ、ここんところをもう少し詳しくまとめて申し上げますが、これは私、原稿見ないで言ってしまったもんで、これ……。大丈夫か。長くなるもんね。いいですか、じゃあ、ぱっと言いますね。

議員からご指摘のとおり、市民の皆様の2020年東京オリンピック・パラリンピックに対する盛り上がりも、長井市がタンザニア連合共和国のホストタウンになったことの認識についても、まだまだ不足してると感じております。私は、東京で開かれるこの大会に、特に長井のこれからの時代を担う青少年に私たちもかかわっているんだという意識を持ってもらって、国際感覚を養っていただきたいという思いからホストタウン事業に取り組んでまいったところです。

平成28年12月９日にホストタウンの第３次登録が決まった後、29年３月にはアフリカ野球友の会の友成晋也代表を講師に招き、登録を記念するスタートの講演会を市民の皆様など80人に参加いただき開催しました。その後もホストタウンやオリンピック、タンザニアなどについて市民の皆様にご理解いただくため、内閣官房オリパラ事務局の羽生雄一郎参事官や駐日タンザニア大使館のチカウエ大使、ソウル五輪日本代表の武田聡山形県水連理事長、駐タンザニア日本大使館の吉田雅治大使による講演会なども行っています。

昨年10月にタンザニア連合共和国を市民の皆様20名と訪問した際、長井マラソン大会ご招待したいとお話ししたところ、快諾を得まして、ことし10月21日に開催する長井マラソンにタンザニアから選手８名と関係者７名の合計15名の方が長井にお越しいただけることになりました。この大会へのタンザニア選手団の参加を契機として、市民の皆様にもタンザニアやオリンピック・パラリンピックやホストタウンについて、

さらに理解を深めていただきたいと思います。

来日に合わせまして、選手団による小・中学校訪問や陸上教室を開催するほか、タンザニアにはアフリカで一番高い山のキリマンジャロがあり、コーヒー豆の栽培も盛んに行われていることから、特産品であるコーヒーや民芸品の販売などを行い、来日前にはタンザニアの文化などを紹介するパネル展などを両国大使館やＪＩＣＡなどと連携しまして、道の駅　川のみなと長井などで実施したいと計画しております。

議員からご提案がありましたタンザニアのコーヒーや伝統料理の提供につきましては、既に市内のお菓子の製造販売店でタンザニアのコーヒーを使ったお菓子やジェラートを考案し、道の駅でも販売しておりますが、コーヒーや料理の提供につきましても、長井市一丸となってタンザニアの応援団となるように関係者と検討してまいりたいと思います。

以上でございます。長くなりました。

**○渋谷佐輔議長**　赤間茂樹商工観光課長。

**○赤間茂樹商工観光課長**　私のほうからは、ご質問の第１項目２番それから４番につきましてお答え申し上げたいと思います。

まず、第１項目２番のガイド養成のためのおらんだの長井検定の復活ができないかというふうなご質問でございます。先ほどの市長からのお話では、ボランティアガイドの重要性、そして、これから観光地域づくりを進めていく中で、非常に大切な存在だといいますか、そういう事業だということをお話しいただきました。その具体的にボランティアガイドを養成するための具体策の一つとして、議員からは、おらんだの長井検定についてご質問をいただいております。

このおらんだの長井検定につきましては、平成25年から27年度まで３年間、これは、長井市が雇用創造協議会というものを設置いたしまして雇用創造事業に取り組んできた、その事業の中の一つでございます。当時さまざまな雇用拡大、雇用機会の創造のために、ありとあらゆる事業を企画、提案してまいりましたけども、そのうちの中の一つでございます。

このおらんだの長井検定の事業の目的とするところは、本市が目指している観光地域づくりを推進するとともに、観光の形態が近年、団体旅行から個人旅行、グループ旅行というふうに移り変わってきているというふうな状況にありまして、また観光スポットだけの観光ではなくて、まちなかを楽しむ、そういった観光にシフトしてきているというふうなことへの、そういうお客様への対応、そういう状況を鑑みまして、長井市におきましても、お客様への対応をするに当たりまして、直接対話する立場にある、主にサービス業界を中心に、地域の物事に精通した人材が必要になってきているというふうなことから、こうした取り組みにつきましては町ぐるみで体制を整えるために、地域の知識があり、来訪者をおもてなし、ご案内できるサービス業等に有為な人材を育てて、それを雇用にしていただくため行ってきた事業でございます。

この検定の事業につきましては、残念ながら試験試行の段階で終わっておりまして、実施につきましては調整したんですけども、その後、実現を見ていないというふうなものでございます。

黒獅子の里ボランティアガイドの人員につきましては、先ほど議員からもご説明ございましたとおり、減少しておりまして、なおかつ高齢化しているというふうなことでございます。毎年市のほうでも募集をかけておりますが、集まらない。さらに、ボランティアガイドの会長さんを中心に、個人的に勧誘をしているという状況なんですけども、なかなか集まらないというのが現状でございます。

このやっぱり解決策の一つとして、ご提案いただきましたとおり、おらんだの長井検定、これを実施することによりまして、長井市を紹介

できる、そういった人材がふえる、いわゆる底辺が拡大するというふうなことでは、非常に有効な手段だというふうに私どもも認識しているところでございます。この事業につきましては、実施できる方法等について、関係機関とも再度相談してまいりたいなというふうに考えているところでございます。

続きまして、１項目め、４番のまちの駅につきましてです。議員からは、いつからオープンするのか、どのような形で進めていくのかというふうなご質問でございました。

この事業につきましては、本定例会へ地場産業振興センターの自主事業費補助金として補正予算を計上させていただいている事業でございます。

事業の中身についてですが、今、長井市が国からの認定を受けまして進めております中心市街地活性化基本計画、この中で目指しているまちのにぎわい、これを推進するために、同じく中活の計画にのせておりました道の駅　川のみなと長井、こちらからまちなかへの案内を促しまして、市街地で受けとめる場所をつくっていくものでございます。道の駅が市全体の総合案内というふうな役目を担いますので、まちの駅ではさらにきめ細かなまちの情報を提供するというような関係を築くというふうに考えているところでございます。

具体的な目標としては、主に３つほど考えておりまして、１つが、先ほど申しましたとおり、道の駅から中心市街地への人の流れをつくる。そのためにまちなかに受けとめる場所をつくるというふうなことでございます。

２つ目が、中心市街地のにぎわいをつくるというふうなことで、いわゆる人がたまる場所、とどまる場所をつくるというふうなことでございます。最終的には、人のとどまりをつくりまして、街路を歩く人の人数をふやすというふうなことが目標となっております。

３つ目に、まちの駅を検討している場所で、同じ場所で、今、地場産業振興センターの２階でインキュベーション施設ございますけども、これと似たような役割になると思いますが、これのまちなか版とでも申しましょうか、まちなかにチャレンジショップというものを運営したいというふうに考えております。実際に商店街にこういったインキュベーション施設的なものを設けることによりまして、まちなかでその商売ですね、起業、創業をしていく人を育てていく、支援していくというような施設をあわせ持って運営したいと、このような内容を地場産業振興センターの、センターが担っている中心市街地活性化に関する事業として取り組んでいただくための事業補助金ということで考えているものです。補助金ですので、長井市からの補助割合につきましては２分の１を今のところ計画しているというものでございます。

また、施設の運営についてですが、まちなかの案内や情報の提供、商店街との連携、商店街の事業などとも連携していくというふうなことを想定しておりますので、まちの駅には案内人が常駐するように考えております。案内人につきましては、補正のほうに雇用する賃金ものせておりますけども、雇用につきましては非常に柔軟な考え方で今のところ検討しています。パートをお願いする、またはボランティアガイドの皆さんに有償でいてもらう、地元の商店街の住民の方に当番としていてもらう、また観光局の職員が勤務のローテーションの中で、一部まちの駅に勤務する、このようなスタイルが今のところ考えられておりまして、とにかく人が常駐するような体制を計画しているところでございます。

また、オープンの日程につきましては、この議案が通り次第の作業になりますので、早くても７月の中旬以降かなというふうに考えているところでございます。

**○渋谷佐輔議長**　竹田利弘地方創生参事。

**○竹田利弘地方創生参事**　私のほうには３点ご質問がありましたので、順次回答させていただきます。

まず最初に、市民への周知のことでございますが、昨年10月に内谷市長を団長としてタンザニアのほうを訪問したわけですけども、そのときに往年の名ランナー、ジュマ・イカンガーさんと面会した際に長井マラソンへの参加を要請したところ、快諾を得たものでございます。

大会でございますが、今のところ10月21日日曜日に行われますが、訪問団員は総勢15人でございます。そのうちイカンガーさん、あとタンザニア政府、あと陸上連盟の関係者が５人、あとコーチが２人、男女１人ずつ、あと選手が男性３人で女性５人の８人でございます。フルマラソンに３人、ハーフマラソンに５人出場と連絡が来ております。タイム的には、特に女子選手のほうで、17歳の選手がいらっしゃいますが、かなり日本のトップレベルと遜色ないようなタイムだということで一応伺っております。

日程的には、21日の１週間ぐらい前に長井に入りたいと。その後、先ほど市長のほうからも答弁ございましたが、小・中学校やあと高校の部活動等でもいろいろ一緒に練習したり、あと交流を深めたり、あと前日の20日につきましては陸上教室を開いたりしたいなということで計画中です。

また、メーンイベントとして、数十年前、30年ぐらい前の福岡国際マラソンで争いました瀬古利彦さんをお呼びする予定でございますので、イカンガーさんによる、いわゆる足での対決というのは、これは難しいと思いますので、言葉での対決ということで、新聞にも紹介していただきましたが、そういったトークセッション、講演会。あとマラソン大会の参加者や市民の皆様とも気軽に交流していただけるようなレセプション、いわゆるパーティーですね、立食になると思いますが、それも計画しております。

また、昨年の訪問時も要望がありました、タンザニアでは非常にいわゆるスポーツ用品が不足してるということで、新品をできれば贈りたいなと思っておりまして、募金箱等も設置も検討しております。

長井マラソンの開催要項につきましては６月の中ごろまでに発表される予定でございますので、これらのイベント等につきましても、実施が決まった段階でできる限り早くホームページやフェイスブック、「広報ながい」などでも市民の皆様にも周知を図っていただきたいと思います。

あと先日の定例の市長の記者会見でも発表したところ、新聞各社、あと放送局、テレビ、ラジオの関係者の方も非常に興味を持っていただきまして、積極的にＰＲには協力したいということでございましたので、そちらのほうの媒体の方にも協力いただきながら、積極的に市民の皆様、県内外の皆様にも周知を図っていきたいと思います。

昨日、山形タンザニア友好協会の総会に市長の代理として出てきましたが、山形県には河井に住んでいらっしゃるルルさんのほかに、もう一人、白鷹町の女性の方にお婿さんに来たタンザニアの方が１人、30歳ぐらいの方がいます。その方だったり、あと寒河江の地域おこし協力隊の方がタンザニアのほうで２年間、青年海外協力隊でやってきたという方もおりますし、あとＪＩＣＡ、その方々たちも積極的に長井のタンザニアとの交流には応援したいということの申し出がありますので、皆様方と協力を得ながら、周知とあと大会の成功に結びつけていきたいと思っております。

あと次にスポーツ国際交流員の件でございますが、本当につい月曜日の夕方でございますが、自治体国際化協会から県を通じましてタンザニア連合共和国から33歳の男性１名が長井市に８

月中旬ぐらいから配置になるということで連絡を受けております。大学で、ダルエスサラーム大学、タンザニアの中の位置づけでは日本の東大のような大学で、体育とか文化を専攻なされてるようで、専門がバスケットと陸上というか、どっちかというと陸上とバスケットですね、とか、あと文化、そういったスポーツの文化ということなんですけども、そういった専攻をなされて、今、地方行政官として働いているという情報しかございませんが、その方が８月中旬から配置になる予定でございます。

主に業務といたしましては、スポーツ等を通じた国際交流及び競技力の向上をサポートする活動でございまして、スポーツ指導の助言や補助、あと職員、住民に対するスポーツ指導、スポーツ事業活動に対する助言などが上げられますが、主にタンザニア連合共和国のホストタウン事業やスポーツを通じた国際人づくり、要するに青少年とかの啓蒙、あと指導ですね、そういったものもやっていただきたいと思っております。特に英語は普通にしゃべれる方だというふうに聞いておりますので、コミュニケーションはある程度小・中学生とれると思いますし、あとスワヒリ語は当然母国語ですので、市民の皆様方にもそういったタンザニアからいらっしゃったときに気軽に声ぐらいかけられるような、そういった語学教室などもちょっと開催を検討しております。

あと最後になりますが、いわゆる費用の問題でございますが、長井市は、平成28年12月に、いわゆる2020年東京オリパラのホストタウンとして国に登録されております。そのためにホストタウンとしての取り組みに要する経費として、地方交付税に関する省令第３条、市町村に係る12月分の算定方法ということで、特別交付税でございますが、交流計画の実施に要する経費の調査っていうのがございます。それにいわゆる予算を計上してるもの、あと予定をしているものを計上いたしますと、いわゆる食糧費と職員に関する旅費。例えば、市長とか私たち職員がタンザニアに行く旅費とか、大使館に行く旅費とか、そういうような、それ以外の旅費、あと食糧費を除く経費は、ほぼ特別交付税で措置されます。ただ、その交付率は50％、対象経費の50％ですので、例えば、このたびの補正予算で約1,400万円計上しておりますが、50％の700万円ほどがことしの12月に特別交付税で国から支援されるということでございます。

あと今年度のような大規模な事業につきましては、議員からのご指摘のように2020年まで毎年実施する計画でございますので、実施に伴う費用負担も多大なものとなってくることから、市民の皆様に有利なものになるような取り組みを進める必要があると考えております。先ほど市長からもありましたが、本市では、将来の長井を担う人材を育成するため、総合戦略の主軸を教育と子育てとしております。特に近年はインターネットや交通機関などの発達により国と国との垣根が非常に低くなり、ボーダレス化が進み、あわせて人や物、情報などのグローバル化も進展しております。ホストタウン事業を通じ、アフリカのタンザニアを初めとするさまざまな国や地域の皆様とスポーツや文化の交流をより一層深めることにより、長井の子供たちを国際感覚豊かな人材として育てることが特に重要と思料しております。

国では、地域活性化の大きな柱の一つとして、特別交付税による財政支援を行いながらホストタウン事業を推進しております。こういったホストタウン事業、先ほど市長からもご紹介ありましたが、実際に千葉県内の一部の市では、外国の方と触れ合う機会ができるホストタウン事業を積極的にやった結果、外国の方と自分の子供を触れ合わせたいということで、いわゆる人口がふえたという事例も挙げられてるようです。

最後になりますが、子供から高齢者の方まで

何らかの形でホストタウン事業にかかわっていただけるような取り組みを進めてまいりたいと思いますので、議員の皆様方にもご協力、ご支援、ご指導よろしくお願いしたいと思います。

**○渋谷佐輔議長**　６番、鈴木富美子議員。

**○６番　鈴木富美子議員**　皆様、答弁大変ありがとうございました。暑いのもちょっと冷めたような、涼しくなりましたので再質問させていただきます。

　商工観光課長にお伺いいたしますが、おらんだの長井検定をやはり復活させていただきたいと私は思いますけど、それやり方については、具体的に考えていればお聞かせ願いたいと思います。

**○渋谷佐輔議長**　赤間茂樹商工観光課長。

**○赤間茂樹商工観光課長**　雇用創造事業で取り組んでいたときのおらんだの長井検定のやり方なんですけども、米沢市の検定を参考にして長井市の仕組みをつくったところでした。ただ、米沢市につきましては、ガイドブックそのものを書店で購入するというふうな仕組みでございましたので、そこの部分につきましては、まだ長井市のほうで、そこまではまだ整理ができていないというふうな状況です。いずれにしても、復活するときは、また米沢市さんの方式を参考に、長井市でできることをちょっと検討して、商工会議所さんとも相談しながら進めてまいりたいなというふうに考えているところです。

**○渋谷佐輔議長**　６番、鈴木富美子議員。

**○６番　鈴木富美子議員**　私もそのいきなり検定しますって言われても、逆効果になってしまうこともあるので、いろんな参考資料を逆にこちらから市民の方に提案していただいて、じゃあ私もしてみっかという気軽にできるような、ぜひ検定にしていただきたいなと思いますので、ボランティアガイドってかなり重要だなって思います。やはり、ガイドさんがいることによって、長井に来られたお客様がまた来てみようかなっていう思いをさせるような案内の仕方もあると思いますので、ぜひみんなで、せっかく観光局もできたし、楽しい旅行をぜひ商品を組んでいただきたいと思いますけど、もう一度旅行商品についても、冬もちょっと心配です、やはり、なので、その点も課長はどのようにお考えですか。旅行の商品の組み方っていうかな、その辺ちょっとお答え願いたいと思います。

**○渋谷佐輔議長**　赤間茂樹商工観光課長。

**○赤間茂樹商工観光課長**　先ほど有償ボランティアの、ボランティアガイドの、ああ、有償ガイドですね、八木先生のお話も出てまいりましたけども、基本的にはやまがた長井観光局でこういった地域の資源や地域に住んでいる方々ができることを組み合わせて商品つくっていくわけですけども、基本的には、観光局の傘下にみんな入れるっていうことではなくて、八木先生のような方もいらっしゃるので、そういった方々と連携して商品をつくっていければというふうに考えております。

　ということで、特に冬が今、不足しておりますけども、冬の事業につきましても、雪わっさのイベントをやっているグループもあったり、そのほか冬のトレッキングなどもやっている山岳団体もいらっしゃいますので、そういったところとの組み合わせで考えていきたいと思っております。

**○渋谷佐輔議長**　６番、鈴木富美子議員。

**○６番　鈴木富美子議員**　ありがとうございます。ぜひ、せっかくここまで来て、すばらしいガイドもできているので、今後継続していけたらいいと思いますのでよろしくお願いします。

　地方創生参事にお伺いいたします。毎年これからオリンピックまでに、先ほどお話がありましたように、特別交付税をいただきながらというか、支援いただきながら来年もこういうイベントをするわけですが、来年につきましても同じような形になるのか、その辺は今、考えてら

っしゃるのか、どうでしょうか。

**○渋谷佐輔議長**　竹田利弘地方創生参事。

**○竹田利弘地方創生参事**　昨年度、実は、タンザニアに訪問した際に、オリンピックの前年の年、来年なんですけども、そのときにもそのマラソン大会に参加をしたいというような旨のご相談を受けておりますので、来年につきましても、ことしの状況を見て、協議になると思いますが、そういったことは当然出てくるのかと思います。

　あと特にそういったマラソン大会だけではなくて、文化交流とか、あとタンザニアの物産を販売する、その方ともちょっと交流が始まりましたので、そういったマラソンだけではない交流についても、どんどん進めていきたいなというふうには考えております。

**○渋谷佐輔議長**　６番、鈴木富美子議員。

**○６番　鈴木富美子議員**　ありがとうございます。やはり、多額なお金を投資するっていうか、なので、先ほど参事がおっしゃったように、子供たちに国際色豊かな、小さいうちからっていうのはすごくいいことだと思いますので、ぜひ、せっかくのお金が生きていかないようなでなくて、やっぱりこれをオリンピックに向けて、市民と一丸になってやっていきたいと私たちも応援いたしますので、ぜひよろしくお願いいたします。

　以上で質問を終わります。ありがとうございました。

## 散　　会

**○渋谷佐輔議長**　本日は、これをもって散会いたします。再開は、明日午前10時といたします。ご協力ありがとうございました。

午後　４時１９分　散会